

くれたけ

発行所
呉竹医療専門学校
呉竹会
事務局
平成30年
2月発行

大宮アルディージャ無料ツボ体験イベント

「ツボの力でGOALを得る」初開催

平成二十九年八月九日(水)十六時十五分～十九時。J1のプロサッカーチームである大宮アルディージャのホームグラウンド。NACK5スタジアム内のイベント会場にて、地元を同じくする本校がクラブパートナーとして、無料ツボ体験のブース出店を行った。

FC東京との試合観戦に会場された大宮アルディージャサポーターに対して、「ツボの力(Power)」でGOALを得る(Yeeler)をコンセプトに、おらが街のチームを元気に応援出来るように、ツボシール(セイリン社製Ponex ZERO)を手と肘に貼付する治療体験を実施した。

大宮アルディージャ対FC東京の公式来場者数一万千百十五人の内、約三時間弱で延べ人数三百八十六人の来客者に恵まれた。幼稚園児～六十歳以上まで幅広い年齢層に、治療体験を通じて、鍼灸認知度向上の普及活動が達成できた。体験ブースの前を通った約一万二人に対して本校の活動の存在を気にかけてもらえたことと思う。

治療体験をお手伝いしてくれた本校学生ボランティア(学生三十三名、卒業生一名)の声を幾つか紹介したい。

- ・鍼治療は怖い、痛いというイメージだったのに、ツボシールによってそのイメージがだいぶ変わったという声を聴けた。
- ・ツボシールでも初めて鍼の体験する方への言葉の選び方に苦慮したことも勉強になった。
- ・ツボの場所や効能に興味を持って話を聞いてくれた方が多くいたことが嬉しかった。等々



本校学生が嬉々として活動に取り組んでくれた様子に企画の意義以上の体験が得られた様には感じました。

雨ニモ負ケズ、ツボの力でGOALを得る」二回目

平成二十九年十月二十一日(土)NACK5スタジアムにて、再度本校プロモーション活動を実施した。二年生及び三年生の学生有志十四名、教職員四名が参加した。

J1リーグ第二十九節の時点で十八チーム中十七位、J1残留争いの大宮アルディージャ。優勝戦線に残るため、勝ち点を取りこぼせない三位柏レイソルの戦い。台風二十一号の影響で雨がしとしと降る中、絶対に負けられない戦いを強いられる大宮アルディージャサポーター。愛するチームを元気に応援出来るように、私たちもサポーター同様に奮闘した。

学生達はこのシールにどんな効果があるのか。どうして手(合谷穴)に貼るのか。鍼灸の専門学校でどんな事を学ぶのか。それらを初めてツボシールを体験するサポーターの方々には苦心しながらも楽しんで説明する様子が見られた。地元大宮を拠点とする本校の学

生にとっては、微力ながらも世間への鍼灸の認知度の向上が目的だ。本活動を通じて、『説明と同意』の大変さ、『将来の仕事への啓蒙』として本活動の意義を感じてくれたように見受けられた。

NACK5スタジアムの公式入場者数は九千七百五十一人中、二時間四十五分の活動時間で二百七十二人の方々にツボシール体験をして頂けた。また、教員が施術する実際の鍼治療体験を二十九名の方が受療してくださった。

アンケートの結果から、鍼灸師が国家資格者だと言うことをご存じない方が65%いた。まだまだ鍼灸業界の情報発信に課題を残す結果が得られた様に感じた。同時に、本活動を通じて鍼灸に興味関心を持てた方が95%もいたアンケート結果が得られたことは、大きな収穫だった。鍼灸の認知度向上、学生のボランティア体験、学校プロモーション活動。様々な面で有意義な体験を得られたと私は感じた。

末筆ながら、本活動に協力してくれた在校生と卒業生、協賛という立場での学校広報活動にご協力頂いた大宮アルディージャ様、ツボシール(PYONEX ZERO)の商品サンプルの提供頂いたセイリン株式会社様にも感謝申し上げます。

鍼灸科教員 西岡岳之



平成二十九年定期総会・同窓会



平成二十九年六月十八日(日)、呉竹会定期総会が呉竹医療専門学校で開催され、新理事の専任等が行われました。

総会終了後は、パレスホテル大宮に会場を移して同窓会が行われました。同窓会から参加される方も多く、総勢百十名の呉竹会員が集まり、短い時間ながらもかつてのクラスメイトや先生との旧交を温めました。

☆次回定期総会・同窓会の案内☆

呉竹医療専門学校呉竹会の第六回総会及び同窓会を開催します。会員同士の交流の場として、ぜひこの機会をご利用頂ければと存じます。



参加希望の方は別途お送り致しますご案内、または本校ホームページにて申込み内容をご確認の上、お申込ください。

開催日 平成三十年四月二十九日(日)

【呉竹会定期総会】

開始…午後三時半

会場…呉竹医療専門学校

【同窓会】

開始…午後五時

会場…パレスホテル大宮

会費…三千元



第七回呉竹祭開催報告

平成29年10月15日(日)、第七回呉竹祭を開催しました。

当日は呉竹祭が始まって以来初めての雨となり、肌寒さを感じる一日となってしまいましたが、そんな中でも240名以上の方が来場されました。

クラスイベントは雨が降る中テントを張って行うクラスもあり、どのクラスも魅力的でしたが、そんな中、今年の呉竹会長賞に輝いたのは鍼灸マッサージ科2年1組でした！



《5階 白衣コンテスト》

☆取材班の感想☆

どのクラスも創意工夫を凝らしており、とてもおもしろかったです。会場も満員でとても盛り上がっていて気分が高揚しました。

白衣コンテストという名前ですが年々白衣ではなく仮装になっていてどこが一番おもしろいかで決まっている気がします(笑)個人的にデブリドマンガが良かったです。

優勝クラスの鍼灸マッサージ科三年一組は参加人数が最多10人が出場という異例の人数で出てくることから、アニメを再現した衣装がとても盛り上がっていました。何より誰もが知っている名曲のコーラスがすごく似ていて大盛況でした。



呉竹祭取材班が選ぶイチオシイベント！

《1部鍼灸マッサージ科3年2組『肉まん』》



☆スタッフからのコメント☆

・このイベントの特徴・アピールポイントは？

蓬菜の肉まん551を提供し、なおかつ輪投げ・ミニじゃんけん・イントロクイズなどのゲームをし、勝てれば値引きという、美味しく楽しくをモットーにしたイベント

・入っているお客さんの様子は？

呉竹の生徒、家族連れ、カップルなど老若男女問わず来ていた。

・スタッフからのコメント

ジャンケンなどのゲームを通して、お客様とふれあい、笑ってスタッフ側も非常に楽しめています。

☆取材班の感想☆

3年生はチャリティーあん摩マッサージもある中クラス全員が同じTシャツを着て、一人一人がしっかり仕事をして楽しそうでした。お客様にはゲームなどを通して笑顔で接客をしていたので、いいクラスだなと思いました。

取材班：鍼灸マッサージ科3年 星大樹・永井由梨



《7階 健康教室》

☆取材班の感想☆

呉竹メディカルクリニックのイベント「健康教室」では手軽に出来る体操などを行っていました。取材時ちょうど休憩時間だったのか、健康教室の様子をうかがうことができなかったのですが、休憩時間にも場所を開放することで来場者の休憩場所になっていました。親子がおしゃべりしたり、リラックスして過ごしていました。



《10階 チャリティーあん摩マッサージ指圧》

人気のチャリティーあん摩マッサージ指圧には、122名の方が参加されました。集まった募金40,023円は日本赤十字社を通じて東日本大震災へと募金しました。

☆取材班の感想☆

家族で来ている方が多いという印象を受けました(施術を受けているのは父母)。学生の保護者や友人も見受けられ、繋がりを感じます。患者さんたちは、施術を受けることを楽しみにしていたり、少し緊張していたり…といった様子が伝わってきました。色々な表情をした患者さんたちが廊下にあふれていました。施術者も少し緊張していた気がします。しかし、施術後には笑顔で見送っていたので、和やかな空間が作り出されているのだろーと思いました。実際自分も施術をし、室内の雰囲気は温かいものだ実感しました。

予約したい患者さんと、施術待ちの患者さんで人が通ることができないくらいでしたが、受付の人が非常に大変そうだったので、人を増やしてあげてほしいですね。

《10階 埼玉県鍼灸師会主催はり・きゅう無料体験》



埼玉県鍼灸師会協力の「はりきゅう無料体験」も貴重な体験イベントとして人気が高く、1日の間に163名の方が参加されました。

☆取材班の感想☆

少ししか取材することができなかったのですが、家族連れ、夫婦でにぎわっていたようです。

体験後、笑顔で教室を出られる姿を見ることができ、このようなイベントを行うことは、鍼灸を知ってもらい、興味を持って頂く機会にもなり、来場者の方々も楽しめ、とても意義のあることだと感じられました。



1日目：出国

平成29年7月30日～8月5日(6日)の6日間(8日間)にわたり第29回上海中医薬大学短期留学一行は、東京校11人、横浜校4人、大宮校6人、引率坂本収(大宮校鍼灸科教員)、平井(東京校鍼灸科教員)、由井(東京校事務)計24名が東京校斎藤校長の見送りで無事に出国できた。

フライト時間は3時間ほどで、機内食を食べ、映画を1本見ればすぐに到着。気温40℃の上海に無事到着。今回は上海郊外の水の郷七宝へ観光に出た。伝統的な中国土産物屋さんでよくわからない食べ物売られていた。学生の一人が勇気を出して買い食いをしていて「なかなか美味」だそうである。レストランで夕食。各班で自己紹介を兼ね、班長選出を行った。大学の白衣と授業カリキュラム資料を配布し予習を促し就寝。ワクワクの始まりであった。

2日目：授業開始

解剖：前胸部、腋窩部・上肢下肢の剖出

推拿・薬膳：市内病院実習・中国針・吸い玉・灸頭鍼の実技授業

初めての解剖、初めての中国病院に緊張気味。でも授業がはじまると積極的に質問をしたり、非常に熱心に勉強をしていた。夕食は大学主催の歓迎会。学院長の歓迎の言葉とデラックスな食事に皆、満足。勉強のモチベーションがあがった。

3日目：

解剖：頸部、腹部、背部の剖出 日本から持ってきた鍼を使って刺入深度を確認したり試験に頻出の腕神経叢を剖出し走行を確認していた。

推拿：病院実習・推拿実技実習 本場中国推拿の技を堪能し、互いに練習。

薬膳：薬膳診断学・生薬講義 香り袋・薬茶・薬酒試飲 学生一人一人に香り袋が頂けた。

薬茶・薬酒の試飲ではお代わりをする学生がいた。飲み過ぎはいけませんよ。

夕食後、大学からの招待で上海雑技団を鑑賞した。今回は、外国の要人が来ると必ずこの雑技団を鑑賞するという中国屈指の雑技団で超人的な技の数々に興奮は最高潮！



4日目：

解剖：上肢・下肢後面の皮神経・皮静脈 筋

推拿・薬膳：運動器疾患の鍼治療実習 美容痩身の鍼灸

昼食後、大学敷地内の中医博物館見学。先生の説明を熱心に聞いていた。

夕食後のフリータイムでは学生おのおの外出をした。タクシーで少々ぼられた学生の報告を受けたが、無事に帰ってきたとのこと。無事でなにより。

5日目：

解剖：胸腔・腹腔臓器の剖出 内臓の剖出は驚きの連続、想像を超える現実に解剖学が立体化する。

推拿：運動障害の推拿治療 実際の治療手技効果を改めて確認していた。

薬膳：生活習慣病に対応するレシピ作成・調理 たらふくご馳走になった。

夕食を含む自由行動 オプショナルツアーには10名参加(上海クルーズ)



6日目：

解剖：四肢関節・脳脊髓剖出 関節包・靱帯・関節軟骨など軟部組織を確認した。傷害を受けやすい部位の構造学的理解が進んだ。

推拿・薬膳：解剖見学実習 総合コースにも1日をかけてあらかじめ用意された、筋肉モデル、内臓モデル、神経モデルなどを見て、触って、実感できた。

昼に解剖経穴博物館見学

謝恩会：今回は日本から小道具、衣装などを持ち込んで、学生みんなのパフォーマンスに大学の先生方は大喜び！解剖教授がいきなり「北国の春」を中国語で歌いだすサプライズもあり、大盛り上がりで終了した。

帰国日：

台風の影響で日本着は遅れたが、入国には問題なく、沢山の経験と沢山のお土産を携えて、無事帰国した。来年度は30周年記念行事として多くの学生参加を呼びかけたい。

『上海研修をおえて』

鍼灸マッサージ科二年二組 田口 愛
村崎 芳実

今回、私達は薬膳コースに参加して来ました。

薬膳の講義では効果や使い方を教わり、強いお酒やお茶の飲み比べ、薬膳料理を作り、楽しく学ぶ事が出来ました。

病院見学では、治療現場を実際に見せていただきました。患者さんの症状に合わせた治療穴や治療方法を詳しく説明して下さい、膝や首などに注射器で漢方を混ぜた薬を直接注入している事に驚きました。また、今勉強している内容が治療に使われており、とても感動しました。

本場の技術と現状を知る事が出来、鍼灸の奥深さを改めて感じ、まだまだ勉強しなければ目標としている治療家になれないと思いました。

今後、中国で学んだ事を生かして、より頑張っていこうと思います。研修に携わって下さった先生方、スタッフの方々のおかげで楽しく、安全に、集中して学ぶ事が出来ました。

心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

OB訪問① 柔道整復科四期生 羽鳥貴紀 本郷整形外科皮膚科 勤務



・職場の特徴

さいたま市北区にある整形外科で、駅からは少し離れていますが周辺に学校が多く送迎バスも出ているため、年齢層問わず来院いただいております。隣接する脳神経外科にはMRIも完備されており、正確な画像診断のもと施術を行っています。

・仕事の内容

院長先生が脊椎専門医という事もあり、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症など神経症状を訴えて来院される患者さんが多いため、他院とは少し変わった機器を用いて施術を行うところが特徴の一つです。

また骨折や脱臼、その他急性外傷に対しても院長の指示により整備から固定まで全ての管理を任されています。

・この仕事を目指したきっかけ
実家で接骨院を営んでいる父親の影響です。幼い頃から



父親の働く姿を間近で見えて「自分もいつか」という思いになりました。自分自身も高校まで野球をやっていた度重なるケガや、日々のケアなどを父親に診てもらおう中での思いがさらに強くなっていたと思います。

・やりがいなど

同じ疾患でも人によって症状が違いその強度も異なるため、患者さん一人ひとりに対してのアプローチを考え、実行した結果が「治癒」として出てくれたら患者さんにとっても自分にとってもこれ以上ない事だと思っています。

・将来の目標

現時点では明確な目標は定まっています。実家の接骨院に入る選択肢もありますし、教育者にも興味があります。どちらにしてもまだまだ未熟なので、現場での色々な経験を生かし柔整師として一人の人間として成長できたいと思います。

時代も変わり厳しい立場になる一方ですが、この先十年後も二十年後も「治せる柔整師」として必要とされる人間でありたいです。

OB訪問② 鍼灸マッサージ科一期生 山口智也 とも鍼灸マッサージ治療院 勤務



・職場の特徴

江ノ島に近い、鵜沼海岸という所で、商店街の通りにあるアパートの一室でも鍼灸マッサージ治療室を開院致しました。この治療室は、海まで徒歩で十分程の所にありプライベート空間で海をコンセプトにした内装となっています。また、他の患者さんと顔を合わせずする事のない様に完全予約制となっています。

・仕事の内容

仕事内容としては、東洋と西洋を織り交ぜた治療と運動などトレーニングを指導をおこない身体改善と再発をしない身体作りを基本に地域の方々の健康維持や体質改善を行っています。

また、マラソンやビーチバレー・サーフィンなどマリンスポーツをされている方も多いので、スポーツをされている方の身体のケアと競技力向上を目的に治療をさせて頂いています。

・この仕事を目指したきっかけ
自身自身、学生の頃にサッカーをしていましたが怪我が多く試合に出られない日々が多々ありましたがその時、接骨院を紹介してもらい治療をしてもらいました。そこでは、怪我をしない為の身体の使い

方やケアの仕方を教えてもらい身体の変化を感じることができ、怪我もしづらくなりました。その時、選手としてではなくサポーターする側でもその競技に関わったり、プロを目指している人のサポーターも出来るのだと気づきこの仕事を目指しました。

・やりがいなど

治療をしていると患者さんから「ありがとう」や「楽になって助かる」などの言葉をもらおうと自信にもなるしこれからも頑張っていこうと思えます。また、スポーツをおこなっている人からは「試合に勝てた」や「マラソンで最後まで走れた」など個人の目標を達成出来た報告を貰えるという事でよかったです。

・将来の目標

目標としては、治療室をもっと他の人知ってもらい患者さんの生活の一部として関わらせてもらいたい事や店舗を増やし人を育ててみたいという目標があります。

またトレーナーとして活動の場を広げ練習や大会などに帯同し選手のサポートをしていきたいと思っています。



OB訪問③ 鍼灸科三期生 合田玲子 鍼灸院爽快感 津田沼店 勤務



・職場の特徴

津田沼駅から徒歩四分の場所にある、不妊治療が主の鍼灸院です。漢方相談薬局を母体としており、併設の漢方薬局との連携により鍼灸の漢方のトータルケアによってお体に良い治療を提供しています。

・仕事の内容

主に不妊治療を行うことが多いですが、美容鍼灸、整形疾患も治療しています。その方の体質をみて、合った治療をすることを大切にしています。そのため初回は一時間半から二時間ほど時間をとり、じっくりとお話を伺います。登録販売者をもっているため、併設の薬局にて必要に応じて漢方薬や健康食品を販売することもあります。

・この仕事を目指したきっかけ

学生の頃三國志を読み、その中に出て来る鍼灸師にあこがれたことがきっかけでした。呉竹大宮校を卒業後、教員養成科に進み、進路に迷っていたとき友人から登録販売者の資格を進められ、取得しました。鍼灸師と登録販売者、両方の資格が活かせる職場を探し、現在の仕事を見つけた。

・やりがいなど

患者様のお体が良くなっていくことや、妊娠の報告を頂いた時の笑顔が一番のやりがいです。

・将来の目標

やがて開業する日のために、鍼灸治療の知識と技術をこれからも磨いてゆきたいです。

平成28年度卒業生進路状況

就職者数 126名 就職率(就職希望者に対する) 94.0%
就職先(順不同・敬称略)

(株)グローフォース / J I N整形外科スポーツクリニック / (株)アルはっとりはりきゅう接骨院 / (株)KEiROW/ 宮原接骨院 / 山本接骨院 / RE CARE スポーツ鍼灸整骨院 / (有)アトライフ / (株)三喜堂 / たいよう整骨院 / 愛和整骨院グループ愛和ウェルネス整骨院・整体院 / (株)メディカルホスピタリティおひさま整骨院 / たから整骨院 / はせがわ整形外科クリニック / みんなの鍼灸整骨院 / 医療法人仁正会下條整形外科 / 浦和整形外科 / たちかわ総合治療センター / 医療法人社団山栄会山崎整形外科医院 /

その他多数

呉竹学園求人検索システムについて

呉竹会員のための「呉竹学園求人検索システム」は、学校ホームページからアクセス出来る「マイページ」で閲覧でき、呉竹学園に頂いた求人を自由に探すことが出来ます。マイページの登録方法が分からない、パスワードを忘れてしまった方などは、学校事務局にご相談下さい。ご相談は電話でも受け付けています。

在校生・卒業生マイページ

呉竹学園求人検索システム



近況報告
在校生コメント

鍼灸マツサージ科一年

神作明裕



入学以前は総合病院で眼に関わる検査の仕事をしていました。

日々仕事をしている中で、重度の疾患や治療困難な患者さんに対して何かないものかと感じていました。もう一歩踏み込んで患者さんに寄り添えるものはないかと思い、東洋医学からのアプローチとして鍼灸師の道を選びました。これまで考えたことがなかった概念や治療法を学ぶ学生生活にとても充実感があり、ゆしさを感じています。臨床に出て少しでも多くの患者さんの助けになれるよう、しっかりと知識技術を身に付けたいと思います。

鍼灸マツサージ科一年

齋藤雛子



入学して一年半が経ちました。毎日が充実しています。

本当にあつという間でした。私は一年生の六月から整骨院で、受付のアルバイトを始めました。直接現場を見る事ができ、先生方に勉強なども教えて貰っています。学校とは違う環境で学べる事はとても有難い事です。楽しく感じています。

授業もアルバイトも、日に自分の知識が増える事をとても実感できます。残りの学校生活を楽しくしながら、クラスメイト全員

で国家試験に合格できるような頑張ってください。

鍼灸マツサージ科三年

渡部なぎさ



私にとって呉竹での学生生活は、今後の人生の戦いのタイムの

ような貴重な時間となりました。今現在の心境は、来春の開業に向けて、既存の枠にとらわれず自由な発想で、自分が本当に望むことにチャレンジしようというワクワクしながら考えているところです。

国試まであと三ヶ月。みんなで笑顔で卒業出来るように、一日一日を大切に。今出来ることに目を向けて、残りの学生生活も楽しみたいと思います。

全ての出会いに感謝。

鍼灸科一年 鈴木孝太



呉竹治療専門学校に入学して、三年と半年の月日が経ちました。鍼灸科では、柔道整復科で学んだことを生かして更に新しい知識、技術を習得し、日々勉強に励んでいます。これから、テストの科目数も増え、難易度も高くなるので今の内に東洋医学の基礎をしっかり身に付けて置くべきだなと思っています。クラスメイトは十二人と少ないですが、少ないからこそ利点もあり、質のいい授業を受ける事が出来ています。十二年半後笑って卒業出来るように頑張ります。

鍼灸科二年 佐々木香奈

昼間に



柔道整復師として整形外科で外傷やリハビリについて学びながら、夜間に鍼灸について学んでいます。一年次に学んだ東洋医学の知識と照らし合わせながら、患者の身体の具合にあわせて的確な運動メニューを考えています。が、まだまだ未熟で仕事と学業の両立の厳しさを日々痛感しています。患者の健康を支えるという意義のある仕事にやりがいを感じていますし、自分自身を高めるためにも、毎日の積み重ねが重要だと思っています。これからも医療従事者として「知識・技術・心」の三つを磨いていこうと思います。

柔道整復科三年 大路真由



現在は、接骨院で働きながら学生生活を送っています。学習内容と臨床で行っていることがだんだん繋がってくるようになり、勉強との両立が大変ですが国家試験合格のために頑張りたいです。

将来は、痛みの原因をしかりと説明でき、取り除けるような柔整師になりたいです。そのためにも、より知識を深めていきたいです。

柔道整復科三年 山田啓紀

入学してから三年が経ち、とうとう国家試験まで後少しになりました。そのため



クラスでは全員が協力して教え合える全員が合格できるように頑張っています。

卒業後は接骨院勤務とともにトレーナーとしても活動し、柔整師として疾患を治せるだけでなく、スポーツ選手のケアやトレーニング指導も出来る柔整師を目標に努力をしようと考えています。

柔道整復科三年 高橋勇輝



現在は国家試験まであと五ヶ月を切り、クラス全員が合格するために

クラス全員一丸となって頑張っています。直近では学内審査、認定実技審査と続くため、それに向けて授業前に練習を行ったり、日曜日に自主練習会を行って技術の向上に励んでいます。

入学してからこれまで体験したことや学習したことを振り返ってみると、多くの発見や自分自身の考え方の変化に気づくことがあり、以前出来なかったことが出来るようになって、これが成長なのだと思います。

国家試験の選択肢は4択ですが、人生の選択肢は無限です。これから我々が向き合う臨床現場の問題の選択肢は無限であり、解答もあるとは限りません。このような困難にあっても立ち向かえる柔整師となるべく、一日一日を大事に過ごして行きたいです。

附属施術所研修生近況報告

鍼灸マツサージ科卒業 研修一年目
澤辺 美智子さん

●研修を始めたきっかけ

在学中の臨床実習を経験し、卒業を間近に控えた中で、自分の治療に自信を持ちたいと思いました。

そのためには、鍼灸の中でも最も多い愁訴である運動器四大疾患の診察や治療法をしっかり学びたいと思い、こちらでの研修を希望しました。

通い慣れた環境と多くの先生方の指導を受けられること、またクリニックやリハビリなども併設された体制の中で、医療従事者としても、多くのことが吸収できるのではないかと思います。

●研修を始めてみて

四月からの一年目の研修は、四大疾患の徒手検査法の再確認から始まり、続いて体表解剖・取穴部位・刺鍼・施灸の確認をします。これは再確認、再習得する貴重な時間になりました。その後、先生、先輩方の施術見学に入り、徐々に医療面接・検査・施術を受け持ち、患者様を引き継ぎます。

在学中の臨床指導を、より時間をかけて丁寧に指導いただき、考えを深める時間になっていきます。

九時から十九時四十分までの研修時間の中では、施術環境の整え方、効率の良い業務の進め方、患者様との関わり方や接し方、カルテ作成等、多くのことを学び、考えることができます。また、施術所や図書室にある多くの専門書に触れられる機会にも恵まれています。

まだまだ何事も勉強・経験不足ですが、施術所専任の先生方や恩師の先生方、先輩研修生の方と多くの人に関わる機会を持てたことが何よりも楽しく、刺激を受け、視野を広げられる大切な時間になっています。

●今後の目標

前職である看護師としての経験とあはき師としての資格を合わせた自分らしい治療を少しでも自信を持って提供できるようにすることです。

鍼灸科Ⅱ部卒業 研修二年目
三島 洋之さん

●研修を始めたきっかけ

学校卒業前から勤務していた鍼灸接骨院では鍼灸の患者さんは少なく、せっかく資格を取得したのに鍼灸を施す経験が得られないと思いました。長年勤務している職場なので、仕事場を変えて患者の多い鍼灸院で働こうとは思いませんでした。なので、研修して治療者としての確かな技術と経験を獲得し、鍼灸の需要を作って職場を盛り上げていきたいと思い、研修を希望しました。

●研修を始めてみて

学校で勉強したことが無駄にならないと感じました。実際の患者さんを通して、医療面接から鍼灸施術やカルテ記入などの一連を定着させることができてきたと感じています。職場でも医療面接や徒手検査が大いに役立っていますし、安心して鍼灸施術ができるようになっていきます。先生達からわかりやすく指導してもらえて、わからないことも聞いたり調べたりする環境で研修できるのはとても贅沢な時間です。研修を続けて感じたことは、目的をもって鍼灸を施せるということが患者さんにも説明できて良い治療に繋がるということです。臨床の現場で基本となる全てを付属施術所で学ばせてもらっています。「何でも基本が大切で、そのことに立ち返ることができる。」それが研修で得た最大の学びです。

●今後の目標

鍼灸が良いものだと感じていただけるように、より多くの人に鍼灸を体感してもらえるようにアピールしていきたいと思っています。もちろん患者さんにより良い状態に鍼灸することが基本なのですが、体の不調がない人でも気軽に鍼灸を体験できて、来院者をより良くより元気にしたいです。将来的には地元である静岡で開業し、地域の方々に貢献していきたいです。お茶畑の中に鍼灸院を建てて、鍼灸施術と静岡茶を味わっていただく。そのためにいろいろな事を勉強して、自分を高めていきたいと思っています。

【平成二十九年度
インターシップを実施】
鍼灸科教員 坂本辰徳

今年で四年目を迎えたインターシップ、多くの事業所にご協力頂き実施いたしました。この講座は、学校の講義で得た知識を実習先の事業所内で活用し、現場での様々な体験を通して、学生自ら感じ、考えその後の勉学や就職活動に生かしていけるようにプログラムされています。

平成二十九年三月にベシックコース(二年生対象)、八月にアドバンスコース(三年生対象)を実施いたしました。ベシックコースは、患者様のお迎えからお送りまでの一連の流れを見学し、施術現場の雰囲気や体験させて頂きました。アドバンスコースは、患者様との会話、室内の清掃、治療の補助等、実際の業務に近い内容を体験させて頂きました。実習後の体験報告会では「患者様のバイタルチェックをさせて頂いた」、「酸素力プセルを体験させて頂いた」、「埼玉県鍼灸師会に入会するきっかけとなった」、「通所介護のご利用者様と一緒に運動療法を行えた」、「マッサージは圧を加えてどの深さの筋肉までやるかを考えることが大切であると学んだ」、「患者さんの体の動きから負担がどこに多くかかるかをイメージして施術を行うことが大切であることを学んだ」等の感想が聞かれました。

来年度からの新カリキュラムでは、必修科目の外部臨床実習として実施する予定です。社会のニーズに応えられる柔道整復師、鍼灸マッサージ師、鍼灸師となるようさらなる充実をはかり、今後も継続して取り組んでいきます。

【在校生の声】インターシップに参加して

柔道整復科三年 上原昌珠

私は実家が接骨院であることから、実家以外の接骨院に来院したことがあります。その為、インターシップは自分の視野を広げる事を目的とし、参加しました。また、柔道整復師として様々な現場で活躍されている方々と対面しお話を伺いたいと考えていました。

見学先は整形外科、トレーナー、超音波を重点においている接骨院、機能訓練指導を行っている事業所から自分が興味のある見学先を選択できました。実際に整形外科・接骨院に行き様々な先生方と話し、また患者さんと触れ合うことができた大変貴重な体験をすることが出来ました。

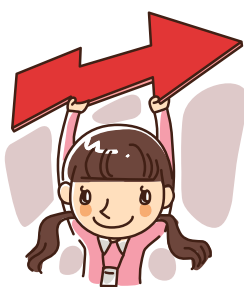
臨床では患者さんとの距離感、話し方など学校では学べない事を多く学びました。そして、これから人に対して仕事をしていく意識が更に高まると同時に、臨床での知識の未熟さも痛感し、学習へのモチベーションが上がりました。

今回のインターシップで得たことをこれからの自分の成長の糧にしていきます。

鍼灸マッサージ科三年

知久慈則

私が今回インターシップに参加したいと思った理由は二つあります。一つは、今までアルバイトをした経験がなく「働く」ということはどのようなことなのか知るにはいい機会だと思ったからです。もう一つは、実際の治療の現場の空気を感じ、授業では得られないことを学びたいと思ったからです。



と思ったからです。

私が見学させて頂いたのは、鍼灸マッサージ治療院と鍼灸・デイスサービス・訪問マッサージを行っている事業所の二つでした。研修内容は治療院内外の清掃やベッドメイク、デイスサービスの利用者さんたちの体操のお手伝い、訪問マッサージの見学、物品の管理のお手伝いなどで幅広い業務を体験させて頂きました。デイスサービスの事業所では、私自身が普段話す機会が少ないご年配の方が多く、治療院の先生のコミュニケーションの取り方はとても勉強になりました。鍼灸マッサージ治療院では授業で先生に言われている手際の大事さについて痛感させられました。

今回インターシップに参加したことでの自分に足りないもの、また伸ばせば良いもの、その両方を再確認することができました。二日間という短い時間ではありましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。

ここでの経験をこれからの普段の生活や治療家になった時に活かしていけたらと思います。最後にインターシップという貴重な場を設けてくださった学校の先生方、協力して下さった治療院の先生方、患者様に心より感謝いたします。

平成二十九年度

公開講座を開催しました

呉竹会主催呉竹医療専門学校公開講座を次の通り開催いたしました。

第一回

『柔道整復師の国際活動』

講師：金井 英樹 先生

第二回

『アスリートの鼠径部痛に対するアスレティックリハビリテーション』

講師：二瓶 伊浩 先生

第三回

『スポーツ現場でトレーナーに求められること』

講師：吉田 成仁 先生

第四回

『肩関節拘縮及び痙縮の評価と治療』

講師：長嶺 芳文 先生

呉竹医療専門学校での公開講座は平成三十年度も開講予定です。詳しい日程は決定次第HPにて公開いたします。ぜひお気軽にご参加下さい。

公開講座参加レポート

鍼灸科教員 福本彩季



十二月十七日に呉竹会主催平成二十九年度公開講座が開催されました。

今回は「スポーツ現場でトレーナーに求められること」と「肩関節の拘縮・痙性アプローチ」の二演題をテーマに、吉田成仁先生と長嶺芳文先生にご講演いただきました。

吉田成仁先生は、まずトレーナーに求められることについてお話しして下さいました。傷害の治療やパフォーマンスの向上だけでなく、選手をサポートする多職種との連携や、選手を取り巻く環境を整えることが必要とのことでした。

次に、選手から受ける様々な相談について実例を元にお話しして下さいました。トレーニングや治療以外にも、自分の好きなことや得意なことについて相談されることもあるため、治療に関する知識や技術を磨くことだけでなく、選手から信頼を得る為には同時に自分の好きなことに打ち込むことも大切だとのことでした。このお話を聞いて、学生のモチベーションにも大きな影響があったのではないかと思います。

最後は、事例を元に実際の治療についてお話しして下さいました。まず、疼痛部位への治療だけでなく、全体の動的アライメントを見ることが、本当の原因を探り、痛みの再発防止の重要性や、正しい身体の使い方を指導し、機能的な動作(モビリティ、スタビリティ)の獲得や回復を目指す必要があることを説明してくださいました。

長嶺先生は、医療費の増大から、在宅マッサージのニーズの増加から伺えるというお話から始まりました。疼痛緩和や可動域の拡大などに加えて、歩けるようになる・自立した生活ができるようになることも在宅マッサージの目的に含められているとのことでした。今回は、マッサージの療養費対象となっている関節の拘縮について、授業だけでは十分に理解することの難しい肩関節の構造について詳しく説明していただきました。そして最後は、モデルを使って実際に臨床で使える拘縮への徒手的なアプローチの実技指導をしていただきました。学生も実際に身体を動かして筋肉を触ることで、臨床で必要となる知識がどのようなものかを感じ取ることができたのではないかと思います。私も学生達と深く学んで行きたいと思います。

学生達の可能性を広げてくださった、吉田成仁先生、長嶺芳文先生と企画・進行を引き受けて下さった呉竹会理事畠山先生に御礼申し上げます。

埼玉県柔道整復師会柔道大会



平成二十九年六月四日(日)に深谷ビッグターナルにて、第四十回(公)埼玉県柔道整復師会柔道大会が開催され、本校からは男子三名・女子二名の学生が参加しました。

男子個人戦では三年生の西田京平さんが準優勝、三年生の小島啓輔さんと二年生の篠原康平さんが並んで三位を獲得。女子個人戦では二年生の佐藤遥菜さんが優勝、三年生の小澤敬子さんが準優勝に輝きました。休日にもかかわらず応援にきてくださった卒業生の先輩方、ありがとうございました。

五十回全国柔道整復学校協会柔道大会

平成二十九年八月九日(水)に東京武道館にて第五十回公益社団法人全国柔道整復学校協会柔道大会が開催されました。本校より男子七名、女子二名の学生が参加しました。

男子は惜しくも予選リーグで敗退となつてしまいましたが、女子は予選リーグを突破し決勝トーナメントに進出しました。

【男子団体戦3部予選リーグ】

対〇〇医療福祉専門学校(広島県)

対新潟柔整専門学校(新潟県)

【女子団体戦2部予選リーグ】

対関東柔整専門学校(神奈川県)

対〇〇医療福祉専門学校(広島県)

【女子団体戦2部決勝トーナメント】

対九州医療スポーツ専門学校(福岡県)

女子も惜しくも決勝トーナメント一回戦で敗退となってしまいましたが、ベスト8という結果を残すことができました。出場した学生全員が本心に頑張りました。早朝より応援に駆けつけて下さった皆様、本当にありがとうございました。

平成 28 年度 事業報告

月 日	摘 要	内 容
平成 28 年 4 月 2 日	入学式出席	福島会長
	会員名簿作成	新規会員 169 名、総会員数 1,217 名
4 月 17 日	定期総会の開催	平成 28 年度理事の選任 平成 27 年度事業報告・会計報告 平成 28 年度事業計画・予算
	一般教養講座の開催	『伝統的な日本語』講師 小野 敬好 総会及び一般教養講座参加者 47 名 卒業生 18 名、在校生 5 名、教職員 24 名
	第 4 回同窓会の開催	パレスホテル大宮 参加者 99 名 卒業生 68 名、在校生 5 名、教職員 26 名
8 月 17 日	全国柔道整復学校協会 柔道大会	大会用柔道着寄贈、壮行会の開催
10 月 16 日	呉竹祭の開催	来場者数 210 名、ｸﾗｽﾊﾞﾝﾄ 20 ｸﾗｽ ﾌｧｼｵｰ募金 42,321 円、鍼灸体験 (埼鍼会協賛)
	理事会の開催	呉竹会報「くれたけ」の掲載内容 平成 28 年度公開講座について 同窓会参加促進及び学校の近況報告
10 月 21 日	呉竹医学会協賛 (横浜校開催)	抄録の印刷
11 月 6 日	公開講座の開催 (1 回目)	医療現場における感染症対策 ～ HIV 看護を通して～ 講師：池田和子先生 参加者 16 名 一次性頭痛に対する鍼治療効果 講師：菊池友和先生 参加者 25 名
12 月 4 日	公開講座の開催 (2 回目)	病気になるしない身体作りⅡ 講師：竹井真澄先生 参加者 78 名
平成 29 年 1 月 22 日	公開講座の開催 (3 回目)	柔道整復とスポーツ 講師：藤井英之先生 参加者 55 名
3 月 16 日	卒業式出席	春山副会長
3 月 18 日	理事会の開催	会長、副会長及び監事の選出、新任役員の選任 平成 28 年度事業報告案・決算見込の報告 平成 29 年度事業計画・予算案の検討 定期総会実施要項等の検討

平成 28 年度 決算報告書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

収入の部

(単位：円)

費 目	予算	決算	増減	備 考
1. 前期繰越金額	22,663,177	22,649,257	13,920	
2. 会費	5,100,000	5,070,000	30,000	新入会 169 名
3. 預金利息	4,000	299	3,701	
収入合計	27,767,177	27,719,556	47,621	

支出の部

(単位：円)

費 目	予算	決算	増減	備 考
1. 運営費	750,000	34,200	715,800	
(1) 消耗品費	50,000	6,480	43,520	会報誌取材 手土産代
(2) 通信費	200,000	0	200,000	会報は H29/4 発行
(3) 印刷費	350,000	0	350,000	同上
(4) 交通費	80,000	27,720	52,280	会議等交通費
(5) 会議費	50,000	0	50,000	
(6) 雑費	20,000	0	20,000	
2. 活動費	4,280,000	3,135,670	1,144,330	
(1) 総会費	700,000	820,000	-120,000	ﾊﾟｰﾃｨｰ費用含む
(2) 呉竹祭費	1,200,000	997,184	202,816	
(3) 学校行事 協賛金	600,000	270,303	329,697	柔道大会・ 公開講座
(4) 表彰費	150,000	75,600	74,400	呉竹会賞記念品
(5) 慶弔費	100,000	20,000	80,000	
(6) 学術研究費	350,000	150,503	199,497	医学会抄録負担金
(7) 同好会 補助費	180,000	180,000	0	9 同好会
(8) 図書等 寄贈費	1,000,000	622,080	377,920	
3. 次期繰越金	22,737,177	24,549,686	-1,812,509	
支出合計	27,767,177	27,719,556	47,621	

財産目録 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

項 目	残 高	項 目	残 高
普通預金	29,169,686	前受金 (会費)	4,620,000
		次期繰越金	24,549,686
合 計	29,169,686	合 計	29,169,686

呉竹道場会員募集！

只今、呉竹道場では、会員を募集しています。見学・体験（無料）を希望される方は、お気軽にお問い合わせください。体験当日の柔道衣はこちらで用意致します。



- 【対象者】 小学校 2 ～ 6 年生
【曜 日】 毎週火・金曜日（祝日および休校日はお休みです）
【時 間】 午後 5 時 30 分から 7 時 30 分まで
【費 用】 ・月毎の会費 3,000 円
・入会金 2,000 円
その他： 柔道衣代、ゼッケン代、全日本柔道連盟登録料、
スポーツ安全保険料 等
【問合せ】 TEL 048-658-0001

最新の学校情報は学校ブログ・SNS で配信しています。

Facebook では呉竹会情報を発信中ですのでぜひご登録下さい！
Facebook @kuretakeiryo で検索！

呉竹医療専門学校 教育理念・目的・目標・育成人材像

呉竹医療専門学校では次のような理念等を掲げ、教育活動に取り組んでいます。

【教育理念】 医の東西を問わず豊かな知識と技術を備え、全人的医療を施すことのできる医療人を育成すること。

【教育目的】 本校は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師を養成するにあたり、それぞれに必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為の人材を育成することを目的とする。

【教育目標】 全人的医療を施すことができる医療人を育成するために、卒前・卒後を一貫した教育体系として捉え、教育施設並びに附設する医療施設を有機的に活用しながら、東西医療への理解を深めると同時に医療実践能力を修得する完結的教育を施していく。また、知識・技術の修得と併せて人格形成の教育にも力を注ぐいでいくことを本校の教育目標とする。

【育成人材像】 (1)責任ある規律正しい生活ができるとともに、豊かな人間性を有し医療の現場において病める人々に、慈しみと共感を持って接することができる、医療人としてふさわしい人材。(2) 教養及び基礎医学知識並びに専門知識を身につけた人材。(3)医療を通じて社会に貢献できる人材。(4)医療に関する知識・技術の進歩に貢献できる人材。

(5)医療連携を実施し、患者本位の施術を行える人材。(6)社会の要請を的確に把握し、生涯にわたり自己研鑽できる人材。

編集後記

「くれたけ」第五号の発行にあたり、ご協力頂きました会員・関係者の皆様に、まずはお礼申し上げます。多くの皆様のご協力により、年々誌面が充実し、この時期記事の編集をするのも楽しみとなっておりま

す。今回、SNS 上で大きく反響を頂いていた大宮アルデイージャとのイベントを一面に掲載致しました。地域に根付いたファンが多いだに、多くの地元の人々と接する機会を頂けたことは、学生にとっても非常に良い経験となったようです。

これからも皆様の声も反映し、より一層励んでまいりたいと思っておりますので、今後も「くれたけ」ならびに呉竹会をよろしくお願い致します。

事務 柳田明彦

発行所 呉竹医療専門学校 呉竹会

〒330-0854
埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-185-1
電話：048-658-0001 FAX：048-658-0005
URL：http://www.kuretake.ac.jp/
《編集委員》
山田真義、武井良之、畠山博式、山口嘉、本多修二、
権田良則、柳田明彦